

# 簡単 Web 観測準備試験

## 動作試験と準備



バケツ：推移試験  
水位計 × 2本

手に乗る Web 観測点  
単 2 乾電池 × 8本

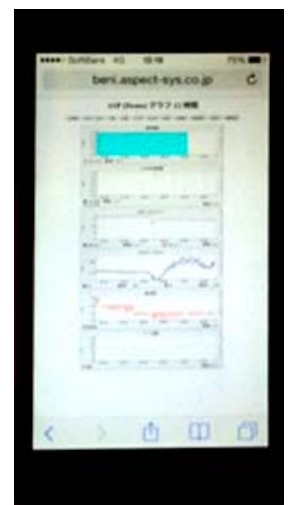
水位センサーケーブル  
20 m × 2本

屋外観測の準備は、一般に機器も多く準備も大変です。でも「手に乗る Web 観測点」なら試験は簡単です。（なお、機器、通信、サーバの設定には専門知識が必要です）

上の写真は、河川堤体内に設置する水位センサー最大 4 本の内、2 本の水位観測をイメージしています。

計測条件、10 m水位計 0.1%FS、10 分毎観測、1 日 2 回計測データをまとめて送信、Web 更新（登録データベース、水位、電池電圧、ケース温度、雨量カウンタのグラフ、CSV データ等）

既にサーバの設定やSIMでの通信設定は終了しており、お客様にデモを行うための予備試験でもあります。右は iPhone の画面で状態をグラフで見えています。ベランダに数日置き、安定動作を確認します。



この様に機器の設定が終わった状態でスマートフォンがあれば簡単に動作確認が行えることは、現地での作業が簡単で短時間で実施が可能となります。

私どもから出荷の時も試験センサーを使いこの様な試験をおこなってシステム全体が安定動作することを確認後します。

具体的には「手に乗るWeb観測点」からは計測データがメールでサーバに送られるのでこのメール内容の確認も行うのですが、このメールだけで確認するのは骨が折れます。それは、全てのデータをグラフの様に一覧する事ができないのでいちいちメールを開かないと確認できないので大変となります。

ロガーの場合、メモリカードを改修してかパソコンをつないでの回収を行いその後データ確認とない手間取ります。これに対して本システムではWeb環境を準備して試験ですので確認は全てスマートフォンで行い作業が楽です。

Web環境の観測でなれてしまうとロガーでの観測には戻れません。特に現在の状況を知るのに手間がかかるのは待ちきれません。試験確認ではセンサーを繋いで様々な試験を行いその結果が直ぐに分かる事が重要です。更に連続した安定試験でもWeb観測は現場に行かなくてもスマートフォンでどこからでも確認でき便利です。

試験を行った後、現地での動作は運搬や機器故障、想定外の問題などまだ故障のおこる原因が0ではありませんが、基本動作と安定性試験がクリアされているの導入はとても気楽なものです。

設置に必要な機器が多いと試験の準備が大変となりますが「手に乗るWeb観測点」なら一体型Web観測なので少ない機材ででき取り扱いがとても楽です。

有償ですが大変な設定や基本動作の確認はこちらで行ってお客様には現地での作業を手軽にトラブルも少なくご利用頂いております。そして、計測を始めるとこちらからもWebで状況が確認できトラブルのサポートをさせていただきます。

Web利用のメリットは、状況をスマートフォンでどこからでも見られるのでこの様な技術支援が簡単に行える事にもあります。